

	A. 長方形（片側廊下タイプ）	B. 長方形（中廊下タイプ）	C. 正方形
<p>平面ゾーニングイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用エリア 執務エリア 会議室等 トイレ・機械室等 階段・ELV 			
市民利用	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・市民ロビーが外壁側に寄るため、開放的な計画が可能 ◎ ・1階は、外部（広場等）との連携利用がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・各窓口への移動距離が短い ○ ・市民ロビーが、執務エリアに挟まれ建物中央に位置するため、閉鎖的になりやすい ○ ・1階は、外部（広場等）との連携利用がしづらい 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・回遊型の廊下となり、各窓口カウンターが一目で把握できないため、サイン計画の工夫が必要 △ ・市民動線が複雑化する傾向がある △ ・建物出入口を各面に設ける等の計画が求められる
職員利用	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・執務エリアをまとめて確保することが可能で、デスク配置の選択肢が多い ◎ ・他部署との連携が取りやすく、ワンフロアサービスを実現しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・窓口カウンター数を確保しやすい ○ ・執務エリアが分割されるため、他部署との連携が取りづらい 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・執務エリアの独立性が増すことにより、他部署との連携が取りづらい
配置計画	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・建物の南側に広場を設けることで、1階共用部との連携利用が可能 ◎ ・市民ロビーに多目的スペース等を配置することで、建物内の賑わいや活動を外部へ発信しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・建物の南側に広場を設けても、接する面積が狭くなるため、1階共用部との連携利用が限定的になりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・裏表のない建物の性質を活かして、敷地の条件に合わせて配置できる
平面計画	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・執務エリアが一体となり、市民と職員の動線を明確に分けることが可能なためセキュリティラインの設定が容易 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・執務エリアが分割され、市民と職員の動線が交錯するため、セキュリティラインの設定が複雑 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・執務エリアが分割され、市民と職員の動線が交錯するため、セキュリティラインの設定が複雑
将来性	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・執務エリアが一体空間となるため、将来的なレイアウト変更が容易 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・執務エリアが分割されているため、将来的なレイアウト変更が限定的 	<ul style="list-style-type: none"> △ ・執務エリアが分割されているため、将来的なレイアウト変更が限定的
総合評価	◎	○	△